

三原市立久井小学校6年

井上望愛

## ホタルの放流をおして

3月初めの日曜日、私が住んでいる久井町江木地区でホタルの幼虫の放流会がありました。私は近所の友だちとわくわくした気持ちで参加しました。

久井町では、以前ホタルがたくさんいましたが、今はその数がどんどん減ってきています。原因は、人間だと思えます。川を汚したりコンクリートで川岸をかためたりしてホタルのすまかをうばっているからです。それで、ホタルが少しでも増えるように、私は黒くくねくねと動く幼虫を友だちといっしょに川に放流しました。放流しながら「このまま大きくなりっぱなホタルになってね。」と心の中で願いました。

久井町には、他にも、絶めつ寸前のヒヨウモンモドキというめずらしいチョウも生息しています。ノアザミが減ってきたことで、そのみつをすうヒヨウモンモドキも減ってしまったのだそうです。さらに、こんなに貴重なヒヨウモンモドキをこっそり採りにくる人もいるのだそうです。

このような話を聞いて、人間がホタルやヒヨウモンモドキを住めなくしているのだと申し訳なく悲しくなりました。

私は豊かな生き物が住んでいる自然いっぱい久井町をほこりに思っています。今後、この自然を守るために、川の清そう活動やヒヨウモンモドキを増やす活動に積極的に取り組みたいと決心しました。



# わがまちに望む夢

三原の未来を担う子ども達の声を紹介します  
—連載第9回—

三原市立西小学校5年

村田莉未

## 初めての梅もぎ体験

私の通う西小学校の校区には、梅林があります。6月にその梅林に梅もぎに行きました。

初めに、梅の先生・仁ノ岡先生のお話を聞きました。話を聞いた後、さっそくグループに分かれて梅もぎを始めました。「よし、がんばるぞ。」とはりきって探し始めました。

でも、なかなか実を見つけないのできませんでした。私が、実を見つけれないと、民生委員の方が手を引いて梅のある場所に連れて行ってくれて、さまざまな枝をよけて、取りやすくしてくださいました。やさしい心づかいに心があたたくなりました。「木の下を見て、枝のほうをじっと見てみれば見つかるよ。」とこつを教えてもらい、少しずつとれるようになってきました。「あつ、ここにも。あんなところにも。」と言いながら、たくさんとりました。

学校に帰って、梅ジュースを作りました。梅もぎも梅ジュース作りも仲間と協力して作業をすることの大切さがよく分かりました。それだけに一カ月後の梅ジュースがとても楽しみです。

私はこの日、生まれて初めて梅もぎを体験して、私たちが住んでいる西宮には、とてもすばらしい地いきの輪があることを知りました。今、梅の木を増やそうという活動が行われています。私も、大きくなったら、地いきの方といっしょに活動をしたいです。

